

小学部 第1学年 成果報告書

令和3年10月中旬～11月
サンホセ校小学部1年1名
指導者 宮本 豪
アグアス校 小学部1年12名
指導者 志田光子

1 教科 単元名

図工 「お話から生まれたよ」

2 単元の目標 評価の観点

3 指導観

(1) 教材観

本題材は、物語やお話の言語による想像の世界を自由に楽しませ、豊かな絵画を製作することがねらいである。この時期の児童は、絵本や物語が大好きである。読み聞かせでは、目をキラキラさせながら聞き入っている。お話の展開を想像したり、場面を思い描いたりしながら聞いているのであろう。このような児童がお話の絵をかくことで、児童の持っている表現の可能性を引き出し、造形活動の資質や能力を育てることができると考えた。しかし、ひらがなを覚えたばかりの1年生が好きな本を自由に選び、好きな場面をかくには、経験がないため、今回は教師の方で物語を決めた。日本語の習得が遅れている生徒もいることから、動画を見せてイメージを膨らませた。

(2) 児童・生徒の実態

- ・図工が好きな生徒がほとんどで、どの教材に対しても一生懸命に取り組む。指示前からもう取りかかる生徒、あっという間に終わってしまう生徒、なかなか作業が始まらない生徒など、作業の進度は生徒によって大きく違う。
- ・リモートでの授業では、そばで保護者が手助けをしてくれていた。対面授業が始まってまだ間もないため、道具の準備や後始末を含め、作業を自分一人で行うことになれるのに、まだ時間が必要である。
- ・「腹ペコあおむし」の物語は知っている生徒がほとんどであったが、現地家庭で育った生徒は初めてであった。

4 指導計画（間接交換授業）

(1) 主な学習内容及び学習活動

- (1次) 「腹ペコあおむし」の動画を見て、どの場面を書こうかイメージする。
- (2次) 自分の気に入った場面を絵に描く
- (3次) できあがった絵をみて、感想などを出し合う。

(2) 児童・生徒の様子

- ・校内でも人数の多い1年生なので、普段からお互いの作品を見る機会がある。しかし、他校の生徒の作品となると、普段とは違う様子で発表の動画を見ていた。しかし、図工以外の教科の交流も進められているため、「〇〇くんの書いたのだ」と、いつも一緒にいる友だちの作品を見るような感じで、感想を述べていた。
- ・作業の進み具合の差が大きかった。

(3)

児童・生徒の振り返り

- ・「すごい」「おもしろい」など、まだうまく表現できないながらも、自分の素直な感想を言うことができていた。

(4) 成果・課題・提案

① 成果

- ・書いて終わりではなく、お互いに作品を見合っただ感想を、自分の次の作品にも生かしていくことで、次につなげていけると思った。

② 課題

- ・動画を見せたことにより、画面に映ったばめんを書くことで終わってしまった。やはり、読んでやることで自分でイメージを膨らませることが大事だと思った。
- ・時間がなかったため、間接的にお互いにの作品を見ての感想にとどまった。発発表会形式で同時に行った方が、直に自分の作品の感想を聞けてよかったと思う。

③ 提案（今後のオンライン合同授業での活用案・他の日本人学校や日本の学校での実践に生かして欲しいこと。）

- ・お互いにパーツを作って、最後にそれを編集し合わせることで、共同作品を作れないか。

